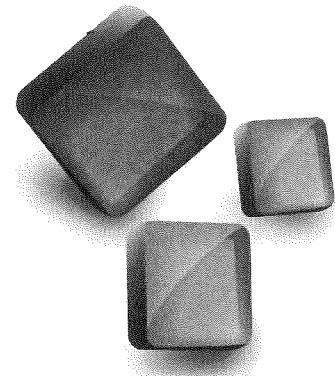


2月1日午前入試



2015 年度
宝仙学園中学校共学部 理数インター
入学試験問題

国 語

2月1日午前入試

【注意事項】

1. 試験時間は50分です。
2. 問題は1ページから14ページまであります。
3. 解答はすべて解答用紙に記入してください。
4. 解答用紙に受験番号、氏名を記入してください。
5. 設問に字数制限がある場合には、句読点も字数に数えます。

自分を信じて、最後まであきらめずに！



宝仙学園中学校共学部 理数インター

一

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。字数制限がある場合には、句読点・記号も字数に数えます。

日本人は人に頼みごとをして断られると、きまつて「そこをなんとか」と執拗に迫る。私自身、そう言つて頼みこんだ覚えがあるし、そう言われて頼まれた記憶もずいぶんある。

そういえば、ある席上で、歴史学者の木村尚三郎氏と雑談していた折り、たまたま話が言葉の問題に及んだとき、氏は「そこをなんとか」というのも日本的な言葉ですね、と笑いながら言つたのを思い出した。おそらく、木村氏もあちこちからいろいろな依頼があつて、そう言われると断りきれず、おおいに辟易したに違いない。たしかにこの言葉の威力は大したものだ。その一言で頼まれた人は無理をしても、つい引き受けてしまう破目になるからである。日本人の特質は「義理と人情」にあるといわれるが、この表現こそ、まさにそれを凝縮したものではないか。

ところで、考えてみると、「そこをなんとか」という言い方は、きわめてあいまいである。「そこ」とは何をさすのか。「なんとか」とはどういうことなのか。おそらく、これをそのまま外国語に翻訳したら、まったく意味をなさないだろう。いや、意識しても通じまい。だいいち、意識のしようがない。強いて説明するなら、「あなたはそのような理由で拒絶なさるが、その理由をもう一度考え直して、私の要求に応じてくださるまいか」とでも言うほかあるまい。**A**しかし、外国人が理由を挙げて頼みを断る場合は、「だから、私はあなたの願いをお引き受けするわけにはいかない」という確固たる立場を表明しているわけで、したがつて、もうそれ以上いくら頼んでも、応じてくれる余地はない。相手の要求を容れる余地がないからこそ、当人は断つたのである。

ところが、日本人は義理人情にからまれて、どんなに明白な拒絶の理由があろうと、相手に熱心に頼まれると、それをむげに断るのは何か気がひけるように思つてしまふ。われわれはそれを「義理と人情」のせいにするが、もともと義理と人情とは、正反対の概念なのである。義理とは、正当な理のことであり、人情とは、その理を解きほぐす情を意味する。このように、正反対のものを一緒にし、折衷して、日本人はそこに独特の判断領域を設定するのだ。それは、別言すれば「情状酌量」といってもよい。**I**、一切のことがらは、それ自体完結しているのではなく、時と場合に依じて「X」の形をとっているわけである。

だから、日本人のノーは、けつして絶対的な否定ではなく、その一部にイエスを含み、イエスはその中にノーの要素を併せ持つている。^③「日本人の不可解な笑い」といわれるものは、その時その時の、こうした判断から生まれているように私には思われる。それを**B**けれど、日本人は、これこそが人情、すなわち、もつと笑しているのである。とうぜん、外国人には、それが狡猾なごまかしのように映る。^④それが、日本人は、これこそが人情、すなわち、もつとも人間的な対応、とみなすのだ。

じつさい、「そこをなんとか」という表現の中には、日本人のものの考え方が、じつによくあらわれている。その考え方とは、すべては完全ではない、ということだ。そこで、頼むほうも、頼まれるほうも、いくばくかの部分が必ず保留されていることを前提に話し合う。したがつて、あと、どのくらい可能性の余地があるか、その「残された部分」を両者は見きわめようとし、この言葉が頻出するわけである。

日本の絵画の特質に「余白」の美というのがある。それに対してイスラムの芸術は、まったく逆で、空白への恐怖とも思えるほど、びつしりと空間を埋めつくす。モスクの絢爛たる装飾に、それがよく現れている。もともと砂漠の民であるアラブ人は、けつして妥協の余地を認めない。それが、こうした芸術の性格に表現されているのではなからうか。

II、日本人の好む「余白」だが、これは言うまでもなく、可能性を意味する。**C**画家はそこに何かを描こうと思えば、いくらでも描き足すことができるのだ。しかし、彼は描かない。描かないことによつて、鑑賞者にその部分を預ける。「余白」とは画家と鑑賞者の共有の空間なのである。そして「余白」をそれぞれが、想像によつてどのように埋めるか、当の作品は両者の「せめぎあい」にかかっているといつてもよからう。^⑤「そこをなんとか」することにより、日本の芸術もその価値を決められるわけである。

見方を変えるなら、それは「甘え」と思われなくもない。「そこをなんとか」と言えば、最後には何かが出てくる、と期待するのであるから。だとすれば、「余白」の美とは、「甘え」の美ともいえるわけで、作者は残りの空間を相手に委ね、鑑賞者はそこを勝手に想像することで、作品を完成させるのだ。**D**

さらに視点を移してみると、それはある種の「自由」であり、「寛容」であり、「希望」ですらあるといえよう。日本人は、きめつけを好まず、いつも融通無碍な可能性を残しておこうとするからだ。それは、樂觀的なのだろうか。**III**、最初から完全を期待しない悲觀論なのか。外国人から見た日本人の性格のあいまいさは、私たちがいつも残しておくこうした可能性にあるのだと思う。**E**

「そこをなんとか」という日本的な表現。それは、ものごとは常に不完全であり、真理はイエスとノーの間にあるという仏教的な觀念に由来するようにも思われる。そうになると、この慣用的な表現、日本人が無意識のうちに使っているこの言葉は、意外に哲学的命題を暗示していることにもなるう。

私は乱雑に散らばつた本のいくつもの山の間に座りこんで、「そこをなんとか」といった表現を登場人物によくいわせている。漱石は、やはり日本的な作家なんだなあ、と、あらためて思い知つた。**IV**、お札にまで刷られたのだ。そして、この日本の表現の中に、日本文化の本質がこっそりかくされているのを痛感させられたのだつた。

(注) ※ 辟易……うんざりすること。

※ 意識……全体の意味内容をつかんで訳すこと

(森本哲郎『日本語根ほり葉ほり』一部改変)

- ※ 情状酌量……いろいろな事情をくんで、刑罰などを軽くすること。
- ※ 勘案……あれこれ考え合わせる事。
- ※ 狡猾……ずる賢いこと。
- ※ 融通無碍……考え方や行動がのびのびしていること。
- ※ 命題……考察の対象となるもの。
- ※ 漱石……夏目漱石。明治時代の作家で、『吾輩は猫である』『坊ちゃん』などの作品がある。

問一 この文章は以下の部分が欠落しています。この一文は本文中の **A** ～ **E** のどこに入りますか。記号で答えなさい。
つまり、もたれあいである。

問二 **I** ～ **IV** に入る言葉として最も適当なものを次の中から一つ選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二回以上答えてはいけません。

- ア それとも イ たとえば ウ だから エ ところで オ つまり

問三 傍線部①「『そこをなんとか』というのでも日本的な言葉ですね」とありますが、なぜ「そこをなんとか」という表現は「日本的な言葉」と言えるのですか。文章全体を踏まえて理由を簡潔に説明しなさい。

問四 傍線部②「『そこをなんとか』という言い方は、きわめてあいまいである」とありますが、日本人は、なぜそのような「あいまい」な言い方を使うのですか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 相手が拒絶するかもしれないという可能性を否定できず、常に不安にさいなまれているから。
イ 相手が拒絶したとしても上辺だけで、本当は受け入れてもよいと思っっていることが多いから。
ウ 相手に、場合によっては拒絶してもよいという気持ちを伝えておきたいと思っっているから。
エ 相手に拒絶されたとしても決定的ではなく、時と場合に応じて判断されるものであるから。

問五 へ X へ に入る言葉として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 一石二鳥
イ 伸縮自在
ウ 十人十色
エ 適材適所

問六 傍線部③「日本人のノーは、けっして絶対的な否定ではなく、その一部にイエスを含み、イエスはその中にノーの要素を併せ持っている」とありますが、どういうことですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア どちらに決まっても良いと思っっているということ。
イ 最終的に返事をひっくり返してしまうということ。
ウ 返事をくつがえす余地がまだ残っっているということ。
エ 考えをころろと変えてしまうということ。

問七 傍線部④「それ」とありますが、「それ」とは何を指していますか。簡潔に説明しなさい。

問八 傍線部⑤「『そこをなんとか』することにより、日本の芸術もその価値を決められるわけである」とありますが、どういうことですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 日本の芸術作品には画家と鑑賞者が争い合う。余白 があり、その争いの結果の蓄積こそが作品を完成させるということ。
イ 日本の芸術作品には画家と鑑賞者が補い合う。余白 があり、補い合ったその内容によって価値が左右されるということ。
ウ 日本の芸術では画家を鑑賞者が批判する。余白 があり、画家はその批評を受け容れることで成長していくということ。
エ 日本の芸術では画家が絶対の存在であり、鑑賞者の意見は無視して自らの作品の価値を決めることができるということ。

問九 次のア～エが本文の内容に合致していれば○、合致していなければ×を、それぞれ解答欄に記入しなさい。ただし、すべて同じ記号を答えた場合は、全問不正解とします。

- ア 「そこをなんとか」と言われると、日本人でなくても頼みを引き受けてしまうことがある。
- イ 日本人は、相手が義理と人情を解さない外国人であるとき、イエスともノーとも言えない。
- ウ 「そこをなんとか」と言う人には、自分の頼みを絶対にきいてもらおうという強い意思がある。
- エ 日本の芸術とイスラムの芸術は、余白^{ゆびら}というものから捉えてみると正反対のものだと言える。

問題二は次のページから始まります。

かつて担任していたクラスが、学級崩壊したという経験を持つ教師・岡野匡（おかのただし）は、今度は小学一年生の担任になるが、またも授業が成り立たない状態になる。

すっかり遅くなって家に帰ると、ぼくの声がかれていることに気づいた母が、あたたかいレモネードを作ってくれた。

「なあに、どなったの？」

韓流ドラマを見ていた姉と父がふりかえる。

「まあね。」

「クラス、たいへんなのか。」

去年、定年退職した父は、ぼくがこどものころ、出張や海外赴任（ふにん）で留守がちだった。父がいない夜、ぼくが風邪（かぜ）をひくと、母はこのレモネードを作ってくれた。

ぼくは、姉と父のむかひのソファにすわった。ふたりは、主人公ふたりがみつめあうテレビ画面から、ぼくに目をうつす。

ぼくは、こんなに、めぐまれているのに。

「かあさんはさ、教え子に困らされたことない？」

「そうね、ピアノ習うくらいの子は、だいたい、余裕のある家の子だからね、お金だけじゃなくて、親の気持ちもね。いい子が多かったわね。」

「そうか。」

「でも、親に無理矢理通わされて、いやいや来ている子には、いたわね。わざとわるいことばかりする子が。」

「そういう子、どうした？」

「どうしようもないね。みんな、じきにやめていったね。」

「小学校はやめられないからなあ。やめさせられないし。」

ぼくはため息をついた。自分の体から出たものなのに、おどろくほどに、あたたかいため息。

①※ハグが足りないんだな。」

父が新聞をひろげながら言った。

「ハグ？」

「日本人にはハグが足りないんだよ。アメリカ行ってみな。親も子も、いくつになってもハグしまくってるから。あそこまでしなくてもいいと思ってたけど、やっぱり、今の時代、あらためてハグするくらいじゃなきゃだめなんだな。」

「ハグしてても暴力ふるうやつもいるけどね。」

姉が自嘲（じちやう）気味に言った。父と母の表情が固まる。テレビの音が大きくひびく。

「なあんでね。じゃあとうさん、さっそく匡をハグしてあげなさいよ。」

姉はわらいだした。

「冗談じゃないよ。かあさんがやりなさい。」

「そうねえ。じゃあさっそく」

母が台所から出てこようとす。

②「ぼくは足りてるから。もう十分だから。」

ぼくは湯呑（ゆづみ）みを持ったまま、あわててソファから立ちあがった。

レモン色の湯気のむこうに、母と父と姉がわらっている。

③ぼくは、こんなに、めぐまれているのに。

火曜日、清水（しみず）さんはやっぱり来なかった。

大熊（おおま）さんはあいかわらず、ぼくの授業に茶々を入れた。

女子グループはおしゃべりをやめなかった。

ぼくは、帰りの会合のときに、宿題を出すことにした。

「このごろ、みんなはとも落ちつきがありません。先生はもう、怒るのにつかれました。」

ぼくが、まだいくらかかすれた声で話しはじめると、こどもたちはみんなぼくを見た。おどろいた。

④「できるじゃないか。みんなをふりむかせる言葉。みんなの気持ちをひとつにする言葉。ぼくにだって。」

「そこで、みんなに、むずかしい宿題を出すことにしました。」

えーっという声。でも、こんなにみんなの声がそろったのは久しぶりだ。

「その宿題は、家族に抱きしめられてくること、です。」

もっと大きな、えーっという声。でも、顔はわらっている。顔を見合せて、わらいだしたこどもたちもいる。

「なにそれー」

「先生エッチー」

「変態じゃん」

「絶対無理」

口々に文句を言うが、顔はわらっている。なかでも大熊さんは立ちあがって不平を述べている。でもその顔はわらっている。ぼくはかまわずにもう一度言った。

「はい、今日の宿題は、家族に抱きしめられてくること。だれでもいいです。おとうさんでもおかあさんでもおばあちゃんでもおにいちゃんでも。妹にでもいいです。」

「猫にでもいい？」

大熊さんがまぜかえす。

「猫とか犬はだめです。人間の家族だけです。家族のだれかに、ぎゅっと抱きしめてもらっててください。明日、宿題ができたかどうか、ききますから、忘れないようにしてください。」

まだおさまらないざわめきの中、日直があいさつをした。

あくる朝、朝の会でぼくは右手を上げながら、きいた。

「はい、宿題をやってきたひとー」

こどもたちは顔を見合わせあい、照れくさそうにわらいながら、ばらばらと手を上げた。でも全員じゃない。

「あれ？ 大熊さんは宿題、しなかったの？」

「しないよ。そんな宿題。」

大熊さんは机に肘をついて言った。その顔が赤い。

「そうか、残念だなあ。大熊さんのおかあさんに後で電話しておくよ。宿題を手伝うように。」

大熊さんはぱっと起きあがった。

「したよ！ 宿題しました。」

「ほんとに？」

大熊さんの顔は真っ赤になった。

「大熊さん、顔赤ーい。」

「ママにだっこしてもらったのー？」

まわりの男子が口々に言う。

「おまえらだってしてもらったんだろっ」

大熊さんににらまれて、こどもたちはそっぽをむいた。その顔も赤い。

ぼくは大熊さんの母親の顔を思い出した。長い金髪をひつつめて、いつもせかせかと急いでいる。余分な肉の全くない、とがった横顔。大熊さんの他にこどもが三人いて、父親はいない。宿題だからしかたなく、抱きしめてくれたんだろうけど、^⑤抱きしめ、抱きしめられたとたんに、なにかがかわったはず。しかたなく抱きしめているわけじゃないことに、気づいたはず。大熊さんも、あらためて抱きしめられたことはなくても、母親に見守られながら育ってきたことを、思い出したはず。

はずかしがって手を上げなかったほかの男の子も、その頬の色を見れば、にやにやわらいを見れば、Xだった。二組のこどもたちはみんな、宿題をやってきていた。

授業がはじまっても、女子グループはおしゃべりをはじめなかった。友達の悪口を言う気になれなくなったのだろう。自分が親から愛されているように、悪口を言われる子だって、親から愛されている。

^⑥大熊さんも、すっかりおとなしくなってしまった。手のかかる第三人の面倒を見させられているだけの自分ではないことに気づいたのかもしれない。自分ばかり我慢しているわけじゃない。いろんな我慢は、母親のためにしていると誇りを持ってほしい。

そんなハグの効力も四時間目になるころには薄れてきて、大熊さんが授業に茶々を入れてきた。でも、ぼくはかまわなかった。にくたらしい大熊さんにも、抱きしめてくれる家族がいる。ひそひそ話をはじめた女の子たちにも、ひとりひとりに、かけがえのない娘と思って抱きしめてくれる家族がいる。そう思えば、こどもたちがかわいく思えた。

こんな気持ちでこどもたちにもかいあったのは、はじめてだった。今までぼくに足りなかったところに、やっとぼくは気づいた。もちろん、大熊さんのいたずらや女子のおしゃべりがなくなったわけじゃない。ぼくの力不足はかわらない。

ただ、ぼくははじめて気づいた。

こどもは、ひとりひとり違う。ひとりひとりが違う家に育ち、違う家族に見守られている。そして、学校にやってきて、同じ教室で一緒に学ぶ。一枚のTシャツだって、一本の鉛筆だって、この子のためにだれかが用意してくれた。そのひとたちの思いが、この子たちひとりひとりにつまっ

ている。

そのだれかは、昨日はこの子たちにごはんを食べさせ、風呂に入れ、ふとんで寝かせ、今朝は朝ごはんを食べさせ、髪をくくったりなでつけたりして、ランドセルをしょわせ、学校に送りだしてくれたのだ。

そんなあたりまえのことに、^⑦ ぼくはやつと気づいた。

ぼくは、この思いにこたえられるだろうか。

目の前の三十八人のこどもたちが、輝いて見えた。だれかの愛情につつまれた、かけがえのないこどもたち。

(中脇初枝『きみはいい子』一部改変)

(注) ※ ハゲ……抱きしめること。

問一 傍線部①「ハゲが足りないんだな」とありますが、「父」の考える「ハゲ」の効果は、どのようなものと考えられますか。簡潔に説明しなさい。

問二 傍線部②「ぼくは足りてるから。もう十分だから」とありますが、なぜ「ぼく」はこのように考えているのですか。その答えを次のように説明するとき、①・②にあてはまる言葉を、それぞれ考えて答えなさい。

母親の冗談を①と思いながらも、②を感じている。

問三 傍線部③「ぼくはこんなにめぐまれているのに」とありますが、このあとにつづく言葉として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 子どもをうまく愛せない。
- イ 学校にはめぐまれていない。
- ウ 子どもたちは違う。
- エ ぼくは家族を理解できない。

問四 傍線部④「みんなをふりむかせる言葉。みんなの気持ちをひとつにする言葉」とは、具体的にどのようなものですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア いつも言っている言葉とは逆の内容である言葉。
- イ 「みんな」ではなく「ぼく」自身のことを話す言葉。
- ウ 「みんな」に聞こえる大きい声で言う言葉。
- エ 「ぼく」の心の中にあることをそのままに伝える言葉。

問五 傍線部⑤「抱きしめ、抱きしめられたとたんに、なにかがかわったはず」とありますが、どのように「かわった」と「ぼく」は考えていますか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 本来ならあえて示したり強調したりする必要のない、親子としての義務をしっかりと感じ合うようになったと考えている。
- イ いつもは隠れていたり見過ごされたりしている、お互いのお互いに対する愛情を改めて理解するようになったと考えている。
- ウ 教育というのは、学校だけでなく家庭においても可能だという事実に、親子が気づくことができたと考えている。
- エ 教育というものの難しさに気づいたことで、親子の教師に対する尊敬を取り戻すことができたのではないかと考えている。

問六 Xに入る言葉として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア いちもくりようぜん 一目瞭然
- イ 一心不乱
- ウ 完全無欠
- エ 満場一致

問七 傍線部⑥「大熊さんも、すっかりおとなしくなってしまった」とありますが、その理由をほくはどのように考えていますか。答えとして最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 一人で自分も含めて四人の子どもたちを育てている母親の苦勞が、弟たちの面倒を見ている自分よりもはるかに大変だと知ったから。
イ 母親の子どもたちに対する愛情の深さを思い知ることで、自分が弟たちの面倒を仕方なくみていたことが恥ずかしく思えたから。
ウ 母親の愛情に氣付くことによって、自分ばかりが弟たちの面倒を見させられ、損をしているのだという荒れた気持ちがとおさまったから。
エ 母親に愛されていると知ること、自分の振る舞いで辛い思いをしているであろう「ほく」に対する思いやりの気持ちが生まれたから。

問八 傍線部⑦「あたりまえのこと」とは、何ですか。その説明として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 自分にも自分のことを心配し、大事に思っていてくれる家族の存在があるということを意識し、それに感謝すること。
イ 自分とは違った家庭環境を持っている子どもたちに深入りすることは、教師である自分にも許されないという認識。
ウ 少しくらいのがまや私語などは氣にすることなく、ただ子どもひとりひとりのことをかわいと思う気持ち。
エ 子どもたちはそれぞれにそれぞれの家庭を持っており、子どもを思う家族が存在しているという事実を意識すること。

三

次の①～⑤の傍線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① ゲンソウ的な光景が広がる。
- ② コウオツつけがたい出来の作品。
- ③ 権力者にイソンして生きる。
- ④ 心のヘダたりを取り除く。
- ⑤ クチブエが聞こえる。

四

次の①～⑤の傍線部の漢字の読み方をひらがなで答えなさい。

- ① 強烈な印象を与える作品。
- ② 皆勤賞で表彰される。
- ③ 大会を開催する。
- ④ 敵のしかけたわなに陥る。
- ⑤ 父親が子供を戒める。

五

次の①～⑤の□に漢字一字を入れて、下の意味になるように慣用句を完成させなさい。

- ① □を売る …やるべきことをしないでなまけること。
- ② □がよい …身勝手であること。
- ③ 二の足を□む …ためらうこと。
- ④ 二の□を演じる …同じ失敗を繰り返すこと。
- ⑤ □が合う …気が合うこと。

国語解答用紙

受験番号
氏 名

※

一
問一
問二
I
II
III
IV

問三

--

問四

--

問五

問六

問七

--

問八

--

問九

ア
イ
ウ
エ

二
問一

問二

①
②

問三

--

問四

問五

--

問六

問七

--

問八

三
①
②
③
④
⑤

四
①
②
③
④
⑤

五
①
②
③
④
⑤

※

※

※

※

※